

# 関東ふれあいの道埼玉県⑪義経伝説と滝のあるみち

日時：2019年11月23日（祝 土） 天候：雨 歩行距離8km 歩数16000歩

集合：西武鉄道吾野駅10時

コース：吾野駅（185.5m）→顔振峠（かあぶりとうげ）（538m）→大峰山（622m）→傘杉峠→  
黒山三滝→黒山バス停（バス）→越生駅

参加者：熊坂L 勅使河原 河野 清水 伊藤美 市村 小田 畠 鹿島 9人

関東ふれあいの道埼玉県7回目は、⑪の義経伝説と滝のある道。吾野駅から顔振峠、かつて山伏たちが修行したといわれる黒山三滝を経て黒山バス停に至る8kmのコースです。今回はレンタカーではなく電車で吾野駅へ集合です。

大型で強い台風19号が10月12日、伊豆半島に上陸して関東を縦断、13日には三陸沖を北東に進み、東海、関東甲信越、東北では記録的な大雨を降らせました。その影響で箱根や奥多摩、鎌倉などでの多くのハイキングコースが通行止めになっています。顔振峠の平九郎茶屋の女性店主も「台風19号の雨は秩父でも凄かった。道が荒れている、10月はお客が全然来なかった」と話されていました。

雨の中の山行でした。写真は踏破撮影ポイントの黒山三滝の男滝と女滝を背景に撮りました。



## 西武池袋線吾野駅（標高185.5m） 雨の中10時スタート

西部池袋線飯能駅で各駅停車秩父行きに乗り継いで5駅目、9時41分に吾野駅に着きました。一つ手前の東吾野駅では7～8人の登山客が降りましたが、この駅では私たちのグループだけでした。雨が降っています。すでに勅使河原さんと清水さんが到着していてレインウェアに着替えていました。

駅の券売機のところに「当駅の標高は185.5m」と表記されていました。駅前にはお店が1軒、あとは何も見当たりません。ストレッチ、コース説明がされて10時丁度にスタートです。左に行くと、1回目の子の権現コースです。今回は右の顔振峠コースへ、熊坂リーダーを先頭に顔振峠をめざします。



## 吾野駅～秩父街道吾野宿標柱～高麗川～林道風影線～風影自治会館

高台にある吾野駅を下ると秩父街道吾野宿の標柱がありました。高麗川に架かる宿橋を渡ります。「ホテル生息地」の看板がありました。雨で水量多く流れが速いです。「顔振峠2.6km」の関東ふれあいの道の案内板が出てきました。沢沿いの車道を上ります。

吾野駅から40分ほど歩きました。いよいよ山道へと思いきや、道が荒れているので九十九折りの林道を上ります。さらに40分、11時20分に木造の小さな風影自治会館に到着。顔振峠までは300mです。「関東ふれあいの道」の古い石柱標識がありました。ここからは山道に入ります。



## 風影自治会館～摩利支天～義経弁慶主従が顔を振り振り登った顔振峠

この日初めての山道です。少し上ると景色の良いところへ、あいにくの雨で案内看板の写真で想像するしかありません。天気良ければ、左から富士山、関東ふれあいの道埼玉県水源のみちで歩いたゴンジリ峠、棒ノ嶺も見たはずですが。摩利支天を右手に見て、さらに上ります。11時32分、標高538mの顔振峠へ到着です。石碑には「昔（奥州へ逃れる）義経弁慶主従が展望の素晴らしさに顔を振り振り登ったので顔振峠の名がついたといわれます」と刻まれています。コース名の「義経伝説と滝のあるみち」、半分理解しました。



## 顔振峠「平九郎茶屋」 温かいお蕎麦に87歳店主とのほのぼのの出会い

顔振峠には茶屋が3軒ありました。そのうちの1軒「平九郎茶屋」へ、ストーブが焚かれていました。だるまに熊手に招き猫にタヌキの置物と何でもあり、片隅にはこんにやく芋が置かれていました。

吾野駅前のお店はおにぎりなど扱ってなくて昼食購入できず、「今日の昼食はビスケットと持参のゆで卵」と観念していましたが温かい山菜蕎麦を頂きました。お新香とみそ蒟蒻のサービスも。女性店主は87歳、「国民年金だけでは大変なのよ」と話しながらも元気はつらつ。聞けば店前の「義経伝説の石碑」も建てたとのこと。記念の写真を1枚、ほのぼのの出会いです。「顔振峠」の標柱を挟んで集合写真を撮りました。



## 顔振峠～奥武蔵グリーンライン～大峰山（622m）～傘杉峠

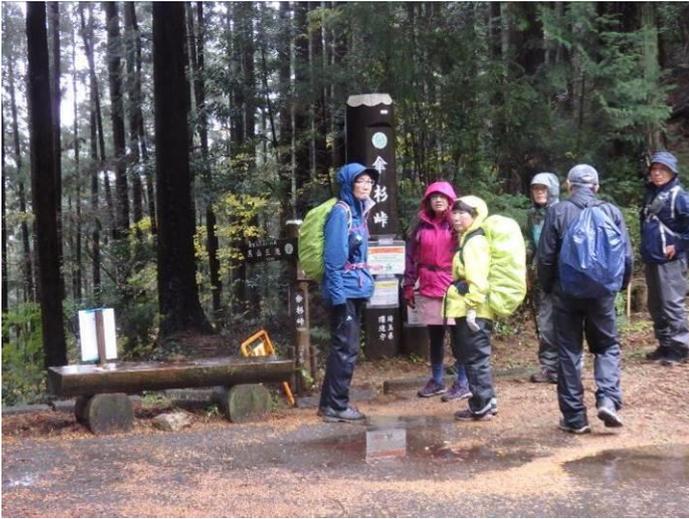
すっかり長居をしました。雨少し弱まった12時26分、スタートです。遠くの景色はかすんでいます。峠前の道路は奥武蔵グリーンライン、時折自動車も通り、ピザとパスタのしゃれたお店も見かけました。山道に入り上りです。8kmのこのコース、5kmまで来ました。12時56分、コース最高地点の大峰山へ到達です。手書きで「大峰（雨乞塚）622m」と書かれていました。

傘をリュックにしまって下山です。13時13分、再び奥武蔵グリーンラインに出て傘杉峠です。この道路の先は「関東ふれあいの道⑩グリーンラインに沿ったみち」。今回は、峠から山道を下ります。



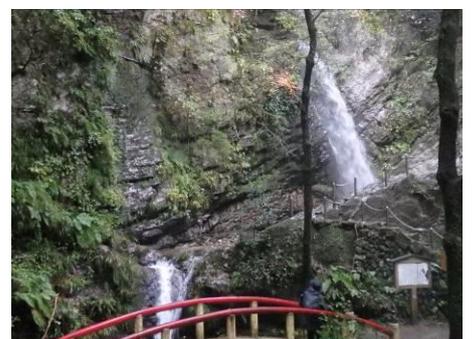
## 傘杉峠～台風19号の爪痕（倒木・道塞がり・橋流され）残る下山①

傘杉峠から黒山三滝までは「標高差約300m、距離1.6kmの沢に沿った静かな山道の下り」で、コースガイドも「一般向き」でした。ところが台風19号の爪痕が残る下山となりました。13時16分、下山開始です。



## 台風19号の爪痕（倒木・道塞がり・橋流され）残る下山②～黒山三滝

台風19号によって、この沢を強い風が吹き抜けたと思われます。傘杉峠までとは違います。倒木による道塞がり数ヶ所、橋が落ちているところもありました。注意深く下山して15時丁度、無事黒山三滝に着きました。



## 男滝・女滝の2段滝の前で集合写真～落差20mの天狗滝～紅葉

このコースのタイトル名「義経伝説と滝のあるみち」の滝、黒山三滝です。荒川水系越辺川源流部の三滝川にかかる男滝（おだき）、女滝（めだき）と、支流の天狗滝の3つからなります。落差10mの男滝と落差5mの女滝は2段に流れ落ち、上が男滝で下が女滝です。マイナスイオンを浴びながら赤い欄干の橋の上で集合写真を撮りました。

私たちが着いたときは、車で来た観光客を見かけましたが丁度帰る時間帯でおみやげ屋もひっそりとしていました。少し下ると右手に落差20メートルの天狗滝が見えました。霊山に天狗が住むということからこの名が付いたとされています。沢沿いの紅葉が目を楽しませてくれます。



## 雨の「義経伝説と滝のあるみち」 1万6000歩、8km踏破

水量の多い沢沿いの車道を歩きます。紅葉を楽しみながらのゆるやかな下り道です。15時21分、黒山バス停着。レインウェアを着替えていると15時28分発の越生行バスが来ました。20分ほど乗って、15時49分に越生駅着、JR八高線「山行振り返り電車」で八王子への帰路となりました。



最後の「沢に沿った静かな山道1.6kmの下り一般向き」コースが、一転「健脚」コース。いろいろ体験して1万6000歩、8km踏破。雨の「関東ふれあいの道埼玉県⑩義経伝説と滝のあるみち」でした。

(いちむら記)